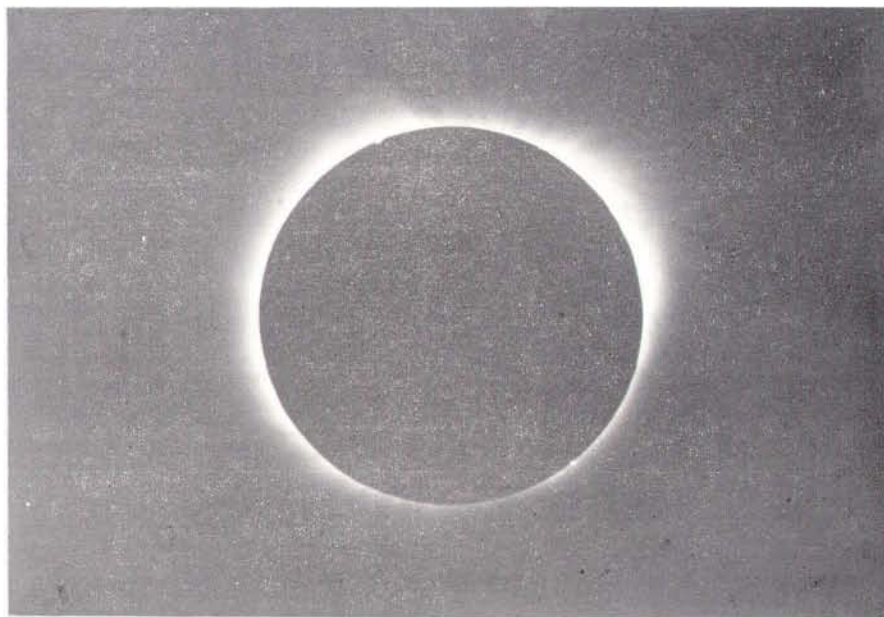


# 月報アルバム

## マヌエ島日食写真集 (1)



マヌエ島日食で撮影した太陽コロナ。上が天球上の北、左が東。  
(東京天文台の四連カメラによる)



東京天文台の四連カメラ。  
中央の機械が長焦点用、右側  
のが短焦点用で、ともにコロ  
ナの偏光測光用である。

マヌエ島における日本観測団  
のテント村、となりはソ連  
村、そのとなりがアメリカ村  
であった。

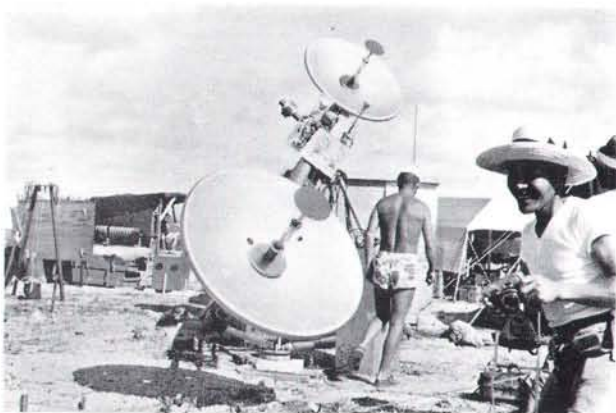


マヌエ島日食写真集 (2)



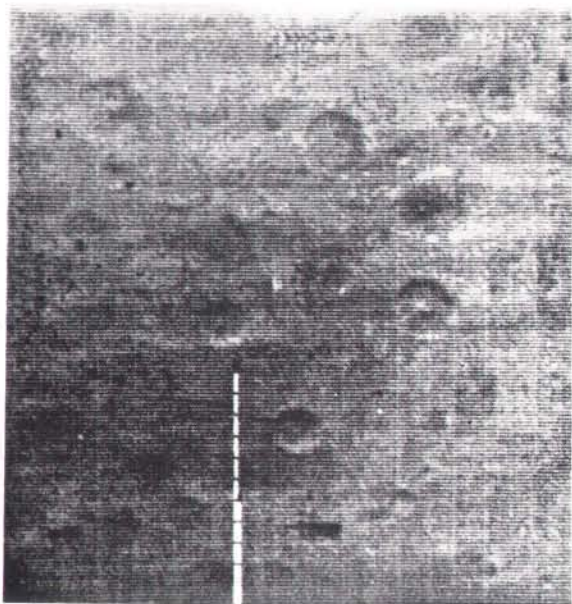
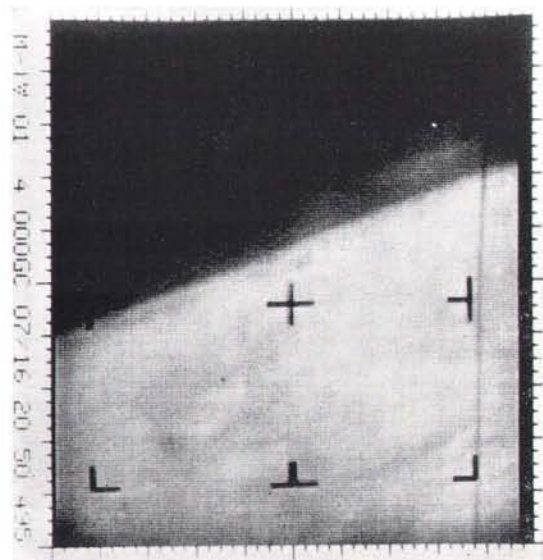
ミネソタ大学ナイ教授のコロナ偏光計  
(赤外用と青色光用の二連望遠鏡)  
右端に花山天文台の斉藤氏が見える。

ブルコワ大学天文台の電波干渉計、4cm波で局部的電波源を  
しらべるためという。右は東京  
天文台田村氏。

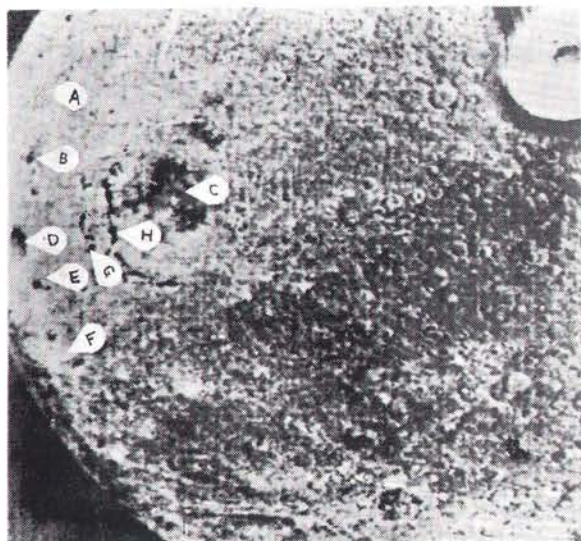


各国観測団の見学会の催し。中央の機械はソ連の焦点距離  
10 mのコロナ撮影用水平カメラ。右端は水路部大協氏。

## 火星及び月の近接写真



1. マリナー4号の第1写真 7月14日に撮影されたマリナー4号の火星の近接写真の第1枚目。カロン、プロポンティスの中間の明るい部分で、フレグラは左下のあたりである。このあたりに細い暗線（運河）が2本ある筈だが、その実体は雲形をした暗い地域なのだろう。地平線上に見えるモヤモヤは大気中の雲を想像させるが、ドライアイスの雲と想像する人もいる。受光面のハレーションかも知れない。
2. シレーンの海 同じくマリナー4号の第9番目のもの。左下がアトランティスにかかる。火口の形は月の山地の火口にならぬが、数は少ないようだ。南北は260km くらいのスケール。アトランティスの写真（表紙写真）や上の写真とくらべてみると、火星では陸が一番火口の密度が少なく、地形も老化し、次に海がこれに続き、海と陸の境界が若い地形が多い、と見られるようである。



3. ゾンド3号の撮影した月の東側の裏の写真 7月20日、月より1万kmの距離から撮影したもの。A: ラバツ（光条の中心）、B: クリュウガー、C: 東の海、D: グリマルジ、E: リッチオリ、F: オルベルス（光条の中心）が同定される。東の海にはGの所に断崖が、Hの所にしわ状の山脈があることがわかってきたが、この写真でその姿が明らかになった。上が南、下が北。写真のゆがみはかなりひどいようだ。